「文化財の現状と課題に対する申入書」回答

１. 収蔵・展示施設の集約について

各地域に分散している収蔵・展示施設は老朽化が進んでおり、文化財を現状のまま収蔵・展示できない状態であります。また、中津川市所有以外の貴重な文化遺産の保護活用、文化財資料などの一元管理も重要と考えます。収蔵・展示施設について、各地域の実情を考慮しながら計画的に集約していただきたい。

【回答】

市内には、文化財や郷土資料を収蔵・展示する施設が約 20 ヶ所あり、それぞれに各地域の資料を収蔵しております。しかしながら、収蔵状況は各施設によって差があり、また広域にわたるため、文化財所管部署による管理が行き届かない状況にあることから、市としても資料の一元管理は重要なことと考えます。

しかし、地域では地域の宝として後世に伝えるため地域の資料は地域にあるべきであるという考えもあります。

今後、地域と協議を進めながら、市内学校施設などの公共施設を有効に活用すること、また、一元管理するものと地域で保存・展示するものを取捨選択することなど、資料の収蔵・展示方法を検討してまいります。

２. 文化財の現場保存について

国史跡の中山道落合宿本陣を視察したところ、建物の一部が崩れるなどの老朽化が進んでいました。落合宿本陣は、中山道ぎふ１７宿の中で唯一本陣が残っている貴重な史跡であり、早急に国、県の支援にも期待した改修計画を作成し、整備と保存をしていただきたい。

【回答】

現在実施している国史跡苗木城跡の整備事業終了後に落合宿本陣の整備事業に取り掛かる方針となったことで、一時中断していた「落合宿本陣整備計画策定委員会」を令和 4 年度から再開し、令和 6 年度にかけて整備計画を策定してまいります。

委員会には文化庁調査官や県文化伝承課職員もアドバイザーとして参加しているため、国や県にも現状を理解していただきながら、よりよい整備ができるよう、進めてまいります。

なお、必要となる維持修繕については、適時実施してまいります。

３. 人材育成、組織・体制の構築について

市内に点在する文化財の調査・整理・保存は、文化財保護員や文化財の調査・整理を行う地域の愛護団体等の構成員に依存していますので、中津川市全域を対象とした文化財保護員などの定期的な情報共有の場、また、学芸員の増員、古文書を解読する人材育成、文化財の調査・整理・保護をしていくための計画や組織の構築について、後世に伝える体制を整備していただきたい。

【回答】

現在市内では、各地域に様々な愛護団体が存在し、行政との関わりの中で、また自己研鑽の中で、文化財や郷土資料の保護、保存、調査に活動されております。

今後、各地域の実情を伺い、活動をされている方々と協議を行いながら、専門的な知識を持ち、幅広い視点で創造することができる人材を育成するために団体との連携を深め、文化財や郷土資料の保護、保存、調査を進めるとともに、市全域で組織的に活動ができる組織体制について検討してまいります。